
チャイルドプレイ

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チャイルドプレイ

【NZコード】

N6894D

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

新しいアイデア小説です。ついにきたい

ある廃屋に少年がいた。東京駅丸ビルから少し外れた信販会社が連なる日溜まり。六本木ヒルズの父親？丸ビルのせいで直射日光は逆光し、少年がいる雑居ビルへ社会の影を浴びせ付ける。

時はまさに午前十時。頭の作業員が三十分ぐらい遅刻。罵声とともに数名の作業員は手を動かす。

ギーギーガーガー。ドリルは氣絶しそうな音を叫びながら全快。昔のホラー映画でたびたび登場した電動のこぎりから火の粉が飛ぶ。はしか菌が飛び散つて多大な感染者を出すように、飛沫。頭骸骨よりやや小さいハンマーを握っていた少年はなんのそのと、天井を打ち抜く。

やがて少年は歓喜の号令を宣言し休憩を告げた。ある派遣先から雑工としてアルバイトに入っていたわたしあはくただつた。砂ほこりが汗でべとつく。

「派遣会社よ、約束が違うぞ！」わたしは構わず水色と白色が輝くコンビニエンスストアへと向かった。添加物で汚染された菓子パン二つを、手提げ袋に入れてもらい、どうにか現場へと生還する。少年は、隣にいた同僚（もつとも言葉を交わしたことえないが）へ尋ねた。

「あんさんたち、バイトやりながら何やつてんの」

「俺はウケレレのプロ奏者を目指しているよッ」名無しの同僚は応えた。

「会社も儲かつてしうがないやねえ。パソコンとファックスさえあれば一人一万三千として手取り五千円。何人ぐらい登録してんのかなア」

話から外れるのを怖れて、すかさずわたしは口を挟む。

「一万人はいますよ」

「俺学生っス」わたしはスミソン製の旧式一連発銃のよつこ、どもりながら言つた。

身長百八十。体重九十五キログラムの巨体を子供のよつと振り子運動させはじめなぞら少年は笑つた。時計を見ると、すでに一時は過ぎている。

「実はねエ俺、必ず月末にフィリピンへ海外旅行するんだ。かみさん置いて。フィリピンでさあ女と遊ぶの。この前もホテル近くのバーで一緒に飲んでいたら、マフィヤが実弾使ってドンパチ始めちゃつて。またか……もちろんカウンターの下へ一人そろつて屈伸運動したさ。でも、かみさんが携帯つながらない地域へ出張することなんかあるんかいな、などと感ずいてきたみたい。なんか言い方法ないかなア。兄さんたち良いアイデアある?」同僚が応えよつと唇を動かそうとした瞬間、号令が鳴つた。

分かつたぞ。あの少年はきつと二つの世界を行き来する旅人だ。月末は金持ちの色男をエンジョイする。そして日本では土方をやる。少年は月末に映画の主人公になれるのだ。

それは温泉地へ行つた叔母さん連中がフロントで「ホントウに源泉?」と尋ねたあと湯船に浸かる。そして「やっぱり本物の温泉は違うわねエ」とお釈迦様の顔になる。だがそこはただの沸騰させた水道水であつた。

そんな実情とは雲泥の差だつ。少年は海の遙か向こうで、紛れもなくお金持ちのジョン・トルマンになれる。

わたしは食べ切った菓子パンの袋をしっかりと鞄へ入れ「お疲れさまでした!」と帰った。

「俺Dっていうんだ。いい話が聴けたね。また次の現場でもよろしくな」

わたしは同僚に向かつて手を振っていた。

しかし筋肉けいれんを起こしていた手には、じつく痛い代償だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6894d/>

チャイルドプレイ

2010年10月30日10時57分発行